

タマネギのマルチ栽培に関する研究

第1報 数品種の収量に対するマルチの効果

松尾良満・山下修司・田代暢哉 (佐賀県畑作試験場)

Yoshimitsu MATSUO, Syuji YAMASHITA and Nobuya TASHIRO: Experiments on the Mulching Cultivation of Onion. 1. Effect of Mulching to the Yield

東松浦半島の上場地域では、国営県営の土地改良事業が行われており、開畑後の畑作営農の確立が早急な解決課題である。そこで、露地野菜の基幹作物として畑作タマネギを選定し、マルチ栽培による生産力を検討した。

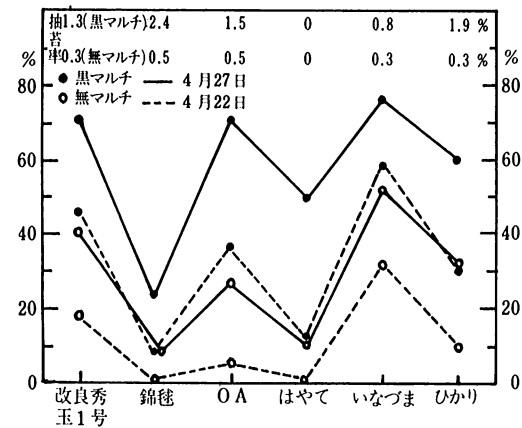
1. 試験方法

1981年～84年まで4年3作にわたり、さつき、もみじを中心に早生6品種を9月9日播き、11月18日植え、中

は6tを越えて10～20%増収となり、色や球じまりも無マルチに比較して良好である。黒マルチ栽培は、雑草の抑制効果も大きく、上場地域の低生産性土壌条件のもとでは最適な栽培方法であることが認められた。

第1表 中晩生タマネギの収穫時期 (月・日)

品 種 名	無 マ ル チ	黒 マ ル チ
○ X	5.19	5.19
○ L	5.27	5.27
さ つ き	5.27 6. 3 6. 4	5.27 6. 3 6. 7
も み じ	6. 7 6.13 6. 7	6. 7 6.13 6.11
ニューコロナ	5.24 5.25	5.24 5.25
ニューもみじ	6.10 6. 4	6.10 6.11
パ ワ ー	6.10 6. 7	6.10 6.11
ニューセブン	6. 3 6. 1	6. 6 6. 4
ア ポ ロ	6. 3 6. 1	6. 6 6. 4
藤原丸1号	6. 4	6.11
ホ ー マ ー	(春植え) 6.11	(春植え) 6.11
収 穫 年	1982 1983 1984	1982 1983 1984



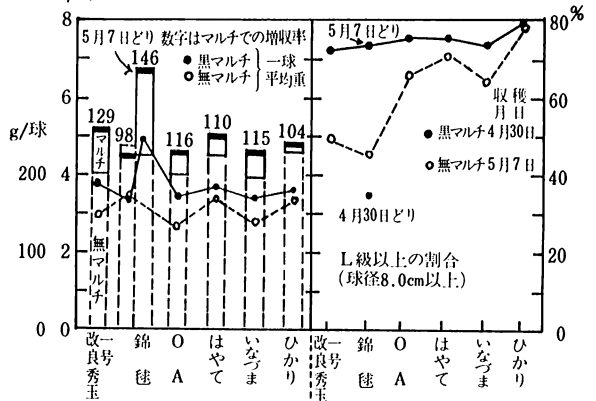
第1図 早生タマネギ品種のマルチ栽培での抽苔率と倒伏率 (1982)

晩生11品種を9月16日～21日播き、12月10日～21日植えて、黒マルチは、5条植のホーリーシートを使用し、施肥量は12～14%減肥して、N23, P32, K23kg/10aを全量基肥とした (ホーリーシートは10月5日播き、2月20日植え)。

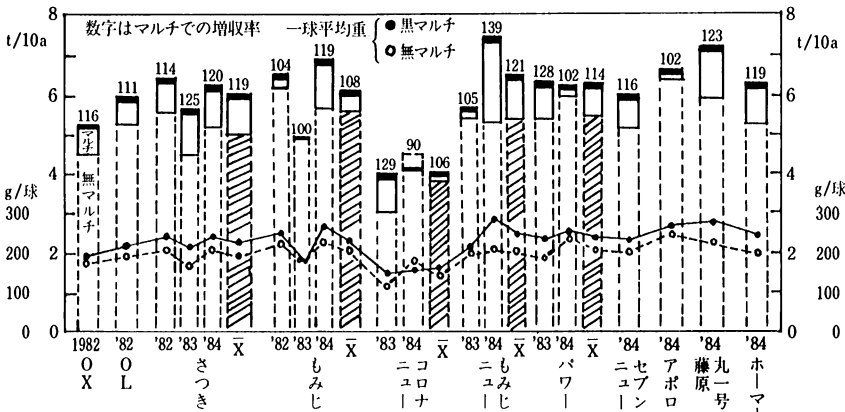
2. 結果および考察

1) 早生品種 マルチによって生育が促進され、7日ほど収穫期が早まり、増収効果も大きく、錦毬の同時収穫では、10a6.7tと2tも増収した (第1図, 第2図)。

2) 中晩生品種 収穫期は、マルチ栽培によって遅れることはあっても、早まることはなく (第1表), 収量



第2図 早生タマネギ品種のマルチ栽培による収量性 (1982)



第3図 中晩生タマネギ品種のマルチ栽培による収量性 (1982～'84)